

## わが国牛肉需要の習慣形成と関税削減影響に関する 計量経済学的研究

高橋, 昂也

<https://doi.org/10.15017/1500786>

---

出版情報：九州大学, 2014, 博士（農学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：全文ファイル公表済

氏 名 : 高橋 昂也

論文題名 : わが国牛肉需要の習慣形成と関税削減影響に関する計量経済学的研究

区 分 : 甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

わが国では現在、日豪経済連携協定（EPA）や環太平洋経済連携協定（TPP）など、牛肉の関税削減に関する議論が行われている。この議論に関しては、関税削減による国産牛肉生産への影響が懸念されており、特に、輸入牛肉と品質が近いと言われている乳用牛肉の生産への影響が懸念されている。そのため、牛肉の関税削減影響を明らかにすることが、現在の重要な課題となっている。

そこで、本論文は、牛肉の関税削減が国産牛肉生産に与える影響を計量経済学的に分析することを目的とする。

まず、わが国における牛肉の貿易自由化に関する計量経済研究のサーベイを行い、牛肉の貿易自由化の影響を計量経済学的に分析する際には、牛肉を品種別に分類した上で、需要体系モデルを用いた分析によって、わが国の牛肉需要構造を正確に捉えることが課題であることを明らかにした。

次に、わが国の食料消費における習慣形成の計量経済分析で用いられてきた主なモデルのサーベイを行い、牛肉の需要構造を正確に捉えるには、需要体系モデルに、近視眼的習慣形成だけでなく、先行研究では扱われてこなかった合理的習慣形成についても導入し、習慣形成を考慮しないモデル、近視眼的習慣形成モデルおよび合理的習慣形成モデルを用いて、現実にもっと近いモデルを統計的に選択することが、最重要課題であることを明らかにした。

続いて、ユーザーコストの概念などを用いて、需要体系モデルに、合理的習慣形成および近視眼的習慣形成を導入し、合理的習慣形成モデル、近視眼的習慣形成モデルおよび習慣形成を考慮しないモデルを構築した。

そして、上記で構築した、合理的習慣形成モデル、近視眼的習慣形成モデルおよび習慣形成を考慮しないモデルを用いて、わが国の牛肉需要構造について計量経済分析を行い、わが国の牛肉需要においては合理的習慣形成が存在していることを明らかにした。また、習慣形成を考慮せずに分析を行った場合、需要構造の推計結果にバイアスが生じることを明らかにした。さらに、わが国の牛肉需要構造について考察を行い、輸入牛肉は消費の習慣性の程度が弱い、乳用牛肉、交雑牛肉および和牛肉といった国産牛肉は消費の習慣性の程度が強いこと、ならびに、各品種は品質的に隣り合う品種と代替関係にあり、品質的に隣り合わない品種とはほとんど代替していないことを明らかにした。

最後に、上記の推計結果をもとに、関税削減のシミュレーション分析を行い、牛肉の関税の5割削減および撤廃は、和牛肉および交雑牛肉の生産に対しては軽微な影響しか与えず、乳用牛肉の生産に対しても壊滅的な影響を与えないことを明らかにした。